

報道関係者各位

2016 年 2 月 2 日 発行

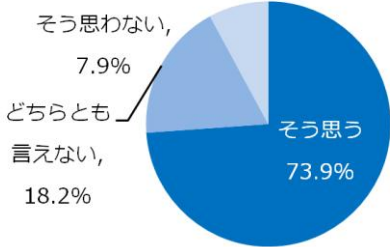
リクルートテクノロジー、IT エンジニア 529 名にアンケート 「2016 年に習得したいプログラミング言語」ランキング発表！ “あのプログラミング言語”をいま学ぶべき理由とは？

IT・ネットマーケティングテクノロジーの開発を行う株式会社リクルートテクノロジー（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：中尾隆一郎、以下：リクルートテクノロジー）は 2015 年 12 月、IT エンジニア 529 名を対象にアンケートを実施しました。世の中の IT エンジニアのスキルアップ事情を知る一環で、現在のプログラミング言語の習得トレンドや、その理由に迫りました。

① 「2016 年に最も習得したいプログラミング言語」ランキング ～それぞれの言語を習得したい理由とは？～

事前調査において、20 代～40 代の IT エンジニア 1,044 名に「2016 年、仕事に関連したスキルアップをしていきたいですか？」と聞いたところ、「とてもそう思う」が 352 人、「どちらかと言えばそう思う」が 419 人と、計 771 人（73.9%）の人が「そう思う」と回答しました。

2016 年、仕事に関連したスキルアップをしていきたいですか？（n=1,044）



「そう思う」と回答した IT エンジニアのうち 529 名に、「2016 年に最も習得したいプログラミング言語」を聞いたところ、Java が 20.4%で 1 位となり、2 位以下を大きく引き離す結果となりました。Java を選択した理由としては、「OS に依存しにくい言語のため汎用性が高い」など活用の広さを挙げる声のほか、「メインで使用する言語となってきた」というコメントも見られるなど、今後も開発現場において需要が高い言語と感じている IT エンジニアが多いようです。

2 位以下に注目すると、2014 年に登場した言語にも関わらず、Swift（6.2%）が 5 位にランクイン。「iOS の開発」に関わるコメントが多く見られ、開発現場において iOS への対応の重要度が高いことが見受けられます。その他のプログラミング言語についても、開発現場での需要や、将来性など、それぞれの特徴を挙げる声が多数見られました。

■IT エンジニアが 2016 年に最も習得したいプログラミング言語ランキング（n=529）

※TIOBE Software が人気開発言語のランキングを発表する「TIOBE Index "Top Computer Languages"（2015.9）」の上位 15 項目から選択

順位	プログラミング言語	回答人数	割合	順位	プログラミング言語	回答人数	割合
1 位	Java	108 名	20.4%	6 位	C++	30 名	5.7%
2 位	C#	38 名	7.2%	6 位	Ruby	30 名	5.7%
3 位	Javascript	36 名	6.8%	8 位	VBA	26 名	4.9%
4 位	PHP	35 名	6.6%	9 位	Python	23 名	4.3%
5 位	Swift	33 名	6.2%	10 位	Visual Basic	22 名	4.2%

PRESS RELEASE

株式会社リクルートテクノロジーズ

■TOP5 のプログラミング言語を選択した理由・コメント

順位	プログラミング言語	傾向	コメント
1 位	Java	高い汎用性	・ 大概の現場で使っているから (37 歳、男性) ・ メインで使用する言語になってきているため (31 歳、男性) ・ 仕事の幅が広がるから (45 歳、男性) ・ 汎用的で OS に依存しない言語 (40 歳、男性) ・ 汎用的であり、かつ需要があるから (43 歳、男性) ・ Java を使用した仕事が増えてきているから (44 歳、男性) ・ ある程度知っているがもっとできるようになりたい (43 歳、女性)
2 位	C#	実用度は高いが 技術者が少ない	・ 技術者数の割に案件数が多い (39 歳、男性) ・ C# のリファレンスが多いため (33 歳、男性) ・ 実用度が高そうのため (41 歳、男性)
3 位	Javascript	Web 開発における需要	・ ソフトウェア製品のカスタマイズで使えるから (36 歳、女性) ・ 開発言語として多くなっているから (42 歳、男性) ・ Node.js の台頭、ECMAScript の標準化プロセスの高速化など、現在最もホットでユーザーベースの多い言語だから (42 歳、男性) ・ Web 開発には必須 (32 歳、男性)
4 位	PHP	需要、活用頻度	・ Web システムの多くがこの言語で作られているため。また PHP の次世代言語が出てこないため (28 歳、男性) ・ 業務で頻繁に利用するため (24 歳、男性) ・ まだ結構使われてる言語で引き続き需要が見込まれそうだから (32 歳、男性)
5 位	Swift	iOS での活用、話題性	・ iOS アプリを作成するのに役立ちそうだから (22 歳、女性) ・ iOS アプリ開発のメイン言語で、最近オープン化されたから (35 歳、男性) ・ iOS の開発が主流になる。また習得しやすい (46 歳、男性) ・ これからの応用範囲が広いから (48 歳、男性) ・ iOS 開発に対しても、知識やスキルを身に付けたいため (27 歳、男性) ・ オープンソースになったばかりで話題性があるし、将来性もあるので (44 歳、男性)

6 位以下のプログラミング言語を選んだ理由についても、「書籍を多く見かける」(Ruby)といった話題性を挙げる声や、「iOS 系の開発に必要」(Objective-C)、「統計解析に向いている」(R)など、開発目的に応じた使い分けを重視する声が見られました。

■TOP5 以外のプログラミング言語を選択した理由・コメントを一部抜粋

順位	コメント
6 位以下	【C++】プログラムの基礎として役に立つから (28 歳、男性) 【C++】オブジェクト指向を身に付けたいから (43 歳、男性)

【C++】プロジェクトで使用している割合が高いので（26 歳、女性）

【Ruby】業界では Ruby で開発している会社も多いから。将来、転職を考えたとき選択肢が広がるため（29 歳、男性）

【Ruby】最近書籍を多く見るから（38 歳、男性）

【VBA】業務改善には欠かせない技術だから（27 歳、男性）

【VBA】システムに限らず幅広く活用できるため（39 歳、男性）

【Python】オブジェクト指向の機能が備わっており、シェルスクリプトの代わりに使われる機会が増えたため（39 歳、男性）

【Visual Basic】今の現場で使う予定があるので（29 歳、男性）

【Objective-C】iOS 系の開発に必要なだから（29 歳、男性）

【Objective-C】今後もモバイルは重要だと思うから（28 歳、男性）

【Perl】社内で Perl 技術者が不足しており、既存で利用しているシステムのメンテナンスに問題が発生しているため（28 歳、女性）

【R】統計解析に向いているから（48 歳、男性）

【R】分析ニーズに対応するため（35 歳、女性）

②【参考】IT エンジニアが勉強会に参加する上で重視するポイント、目的は？

今回のアンケートは、2016 年の IT エンジニアのスキルアップ事情を把握することを目的としていました。番外編として、「社外勉強会に参加する上で重視したいポイント」についても聞いたところ、「テーマ」が 62.8%で 1 位でした。2 位以下では、「開催場所」(47.8%)や「参加費用」(39.1%)、「時間帯」(38.6%)といった、“参加のしやすさ”に関わる項目が上位にランクインした一方、「参加者の属性」(12.1%)や、「主催者」(11.7%)、「登壇者」(11.7%)など、人に関する項目はいずれも重視する割合が少ない結果となりました。多くの IT エンジニアが、参加者や登壇者といった“人”ではなく、“内容”や“効率”を重視して勉強会を選択している、という傾向がうかがえます。

■社外勉強会に参加する上で重視したいポイントを、すべて選択してください。(n=529)

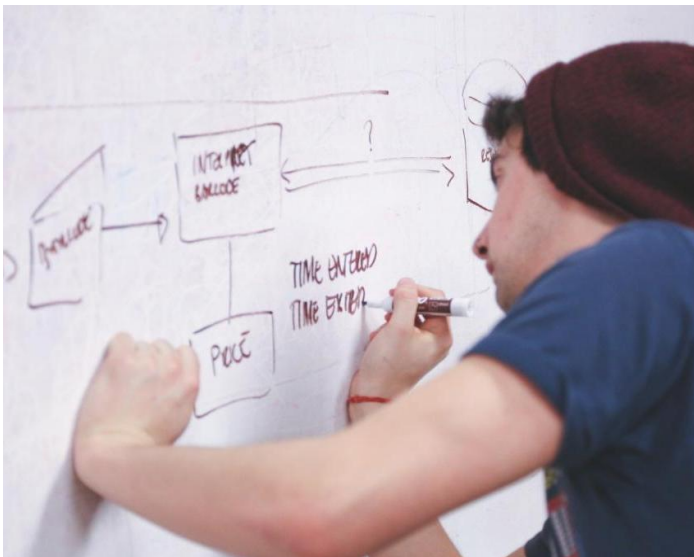
順位	重視したいポイント	回答者数	割合
1 位	テーマ	332 名	62.8%
2 位	開催場所	253 名	47.8%
3 位	参加費用	207 名	39.1%
4 位	時間帯	204 名	38.6%
5 位	開催形式 (Ex. セミナー/ハッカソン)	130 名	24.6%
6 位	拘束時間	106 名	20.0%
7 位	参加者の属性	64 名	12.1%
8 位	主催者	62 名	11.7%
8 位	登壇者	62 名	11.7%
10 位	参加人数の規模	58 名	11.0%
11 位	その他	1 名	0.2%
-	特になし	60 名	11.3%

また「社外勉強会に参加したいと思う理由」を聞いたところ、「現在の仕事の幅を広げる知見を得る」が 76.1%で 1 位、「将来の仕事に役立ちそうな知見を得る」が 63.5%で 2 位となり、3 位以下（いずれも 30%未満）を大きく引き離す結果となりました。交流ネットワークづくりや、知的好奇心を理由に勉強会に参加するよりも、あくまで「現在や今後の仕事に活かせるか？」を重視し、勉強会に参加する IT エンジニアが多い傾向にあると言えます。

■IT エンジニア向けの社外勉強会に参加したいと思う理由を、すべて選択してください。(n=469)

順位	社外勉強会に参加する理由	回答者数	割合
1 位	現在の仕事の幅を広げる知見を得る	357	76.1%
2 位	将来の仕事に役立ちそうな知見を得る	298	63.5%
3 位	仕事に関係する他の参加者との交流ネットワークを得る	126	26.9%
4 位	仕事に関係する専門家との交流ネットワークを得る	103	22.0%
5 位	起業・転職・就職・再就職の準備	99	21.1%
6 位	学ぶことそのもの、知的好奇心の充足を得る	92	19.6%
7 位	仕事とは関係なく他の参加者との交流ネットワークを得る	79	16.8%
8 位	趣味の幅を広げる	66	14.1%
9 位	仕事とは別に、社会的意義のあることに参加する機会を得る	44	9.4%
10 位	その他	2	0.4%
-	特になし	5	1.1%

③ 社員のスキルアップや産学連携に取り組むリクルートテクノロジーズ



リクルートテクノロジーズは、従業員に対する「働きやすい環境整備」と「挑戦を応援する機会作り」を目指し、多様な施策を実施しています。社内では、チームごとに独自に「エンジニア育成研修」や「プログラミングコンテスト」を実施したり、全社的にも、新入社員が社内メンバーへ自由にアポイントを取り話を聞く「スタンプラリー」や、「中途社員向けランチ会」、「社長によるマネジメント力強化塾」を行ったりするなど、IT エンジニアが会社に馴染み、入社後もスキルアップしていくための活動が多数存在します。

また、産学連携を振興するための取り組みにも力を入れ、下記のような活動を積極的に行っています。今後もさらに活発な情報交換、人的交流を図ってまいります。

【産学連携に関する取り組み例】

- ・学術研究用のデータ提供
- ・大学での特別講義、研究室との技術情報交換などを通じた交流
- ・学会イベントへの協賛や技術報告セッションへの登壇、学会イベント向けの無償会場提供
- ・独自のハッカソンイベントの開催、および社員によるメンタリング
- ・オフィスへの学生の方々のご招待、および社員との交流会

◇ 調査概要

- 調査方法: インターネットリサーチ
 ■実施期間: 2015 年 12 月 22 日(火)～2015 年 12 月 27 日(日)
 ■調査対象
 居住地: 全国
 性別: 男女
 年齢: 20 代～40 代
 職業: IT エンジニア
 人数: 529 サンプル(20～29 歳 143 サンプル/30～39 歳 182 サンプル/40～49 歳 204 サンプル)

■設問:

【事前調査】あなたは 2016 年、仕事に関連したスキルアップをしていきたいですか？ (n=1,044)

とてもそう思う／どちらかと言えばそう思う／どちらとも言えない／どちらかと言えばそう思わない／まったくそう思わない

※Q1～Q4 は、「とてもそう思う」「どちらかと言えばそう思う」回答者のうち 529 名を対象に実施

Q.1 2016 年に習得するとしたら、どのプログラミング言語を最も習得したいと思いますか？ (単一回答、n=529)

※「TIOBE Index "Top Computer Languages" (2015.9)」上位 15 項目を引用 <http://statisticstimes.com/tech/top-computer-languages.php>

Java／PHP／Python／C＃／C++／C／Javascript／Objective-C／Matlab／R／Swift／Ruby／Visual Basic／VBA／Perl／その他／特になし

Q2 Q1 で回答した言語を選んだ理由を教えてください。(フリー回答)

※Q1 から「特になし」を排除

Q3 社外勉強会に参加する上で重視したいポイントを、すべて選択してください。(複数回答、n=529)

テーマ／開催形式(Ex. セミナー／ハッカソン)／開催場所／時間帯／拘束時間／主催者／登壇者／参加者の属性／参加費用／参加人数の規模／その他／特になし

Q4 IT エンジニア向けの社外勉強会に参加したいと思う理由を、すべて選択してください。(複数回答、n=469)

※Q3 から「特になし」を排除

現在の仕事の幅を広げる知見を得る／将来の仕事に役立ちそうな知見を得る／起業・転職・就職・再就職の準備／仕事に関係する他の参加者との交流ネットワークを得る／仕事に関係する専門家との交流ネットワークを得る／仕事とは関係なく他の参加者との交流ネットワークを得る／趣味の幅を広げる／仕事とは別に、社会的意義のあることに参加する機会を得る／学ぶことそのもの、知的好奇心の充足を得る／その他／特になし

◇ 会社概要

株式会社リクルートテクノロジーは、リクルートグループのビジネスにおける IT・ネットマーケティングテクノロジーの開発・提供を行う機能会社です。IT・ネットマーケティング領域の専門力・イノベーション力で、リクルートグループのビジネスを進化させることがミッションであり、「次世代技術の R&D・新ソリューションの開拓」「ビジネスの実装」といったテーマに取り組んでいます。

- 社名 : 株式会社リクルートテクノロジー
 ■設立 : 2012 年 10 月 1 日
 ■資本金 : 1 億円
 ■従業員数 : 498 名(2015 年 10 月 1 日現在)
 ■事業内容 : IT・ネットマーケティングテクノロジーの開発・提供
 ■Web サイト : <http://recruit-tech.co.jp/>

本件に関する報道関係者様からのお問合せ先

株式会社リクルートテクノロジー PR 事務局 アウル株式会社内 濱西(ハマニシ)・池田(イケダ)・大畑(オオハタ)
 TEL: 03-5545-3888 FAX: 03-5545-3887 MAIL: rtc-ml@aur.co.jp
 〒107-0052 東京都港区赤坂 1-7-1 赤坂榎坂森ビル 5F